

園だより 2月

わたしたちは 見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。
見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

コリントの信徒への手紙II 4章 18節

ここ数日冬らしい寒さが続いています。子どもたちは白い息を弾ませながら薄着で、水を使い砂場遊び、風を切ってブランコ、鬼ごっこにサッカーと、事務所の中から見ていると外は暖かいのかしらと思ってしまいそうないつもと変わらない外遊びが展開されています。活動的に遊ぶ子どもたちにとっては暖か過ぎる上着は無用なのでしょう。でもそのおかげか、知らず知らずのうちに丈夫な体が作られているのではと思っています。胃腸炎、インフルエンザとこの時期に流行る疾病が無いわけではありませんが、蔓延することなく1月のひと月も過ごせたことに感謝でした。これからも大流行する事無く過ごせることを祈ります。

三学期が始まり、それぞれに自らの遊びに夢中な子どもたち。継続的に遊びが展開されている様子は学年末ならではの園の様子です。子どもたち同士、心を通わせ、工夫しながら考えながら遊んでいます。一緒に遊ぶ友だちの登園を心待ちにし、朝の挨拶のため園庭に立つ私に「○○ちゃんまだ来ない？」と声をかけてくる年少さん。初めての集団生活の中、友だちとぶつかりあったり、少しずつお友だちの想いに気付いたりしながら共に遊ぶ喜び、楽しさを知り、三学期の今、お互いに心を通わせ合い過しているのです。年中さんにも年長さんにも、同じ様にその年齢相応の成長した子どもたち同士の今があります。一人ひとりの想いが温かなエネルギーとなって幼稚園全体に流れている今のとき、そのエネルギーに包まれ、安心した心持ちの中、一人ひとりが個々の想いを表現し自分を輝かせています。その様な毎日に、子どもたちそれぞれがゆっくり過ごして来た育みの過程の大切さ、様々な想いが織りなされることで育まれた豊かで深まりのある成長を感じ、それ故の今があることを本当に嬉しく思います。先日の柴田 愛子先生も、講演で「子どもが今を豊かに過ごすことが次へ繋がります」とおっしゃっておられました。共感しました。

残り少ない今年度、2月の日々も子どもたちの今を見つめ、子どもたちと共に毎日を大切に過ごして参りたいと願います。ご協力、宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子